

会 議 録

会議名	令和8年度 第1回佐久市環境審議会
事務局	環境部 環境政策課 環境政策係
開催日時	令和8年8月25日（火） 14時30分～16時00分
開催場所	佐久市市民創縁センター 大会議室
出席者	【委員】 平林 公男委員、小宮山 尚明委員、麻生 知子委員、 辻 明子委員、吉田 寧裕委員、宮原 則子委員、 廣澤 三和子委員、棚澤 静枝委員、小島 和夫委員、 渡辺 晃一委員、安原 茜委員、山澤 知姫委員、 鈴木 智子委員、上田 耕佑委員、津吹 玲委員、 (15名/20名出席) 【事務局】 若林環境部長、高野環境政策課長、 環境政策課 環境政策係 百瀬係長、眞山主任、松田主任、伊藤主任 株式会社ナレッジリーン 水野
次第	1 開会 2 市長あいさつ 3 諮問 4 会議事項 （1）第三次佐久市環境基本計画の策定について （2）アンケート調査について 5 その他 6 閉会

	<u>1 開会</u> <u>2 市長あいさつ</u> <u>3 諮問（第三次佐久市環境基本計画の策定について）</u> <u>4 審議事項</u> <u>（1）第三次佐久市環境基本計画の策定について</u>
事務局	《資料1「第三次佐久市環境基本計画 策定業務」、資料3「今後のスケジュール」について説明》
委員	1 つは、ワークショップについて、1 回で予定されているということだが、複数回開催した方がいいと思っている。提示した開催日程に参加できないことが起こると思うので、複数回開催した方がよいと思う。 ワークショップは、市民同士の出会いの場という面もあり、環境に関する人同士の今後の活動が活発になれば、すごくよい機会になると思っており、県主催で開催されたワークショップへ参加した際に、そこで知り合った人たちと今でも交流があり、複数回実施すると良いと思う。 予算の都合等あると思うが、1 回は世代別にし、学生と大人との出会いっていうのも大事で、もう 1 回は世代の垣根を払ったワークショップがあってもいいと思う。若い人たちはエネルギーがあり、それをどこで出しているかわからないところを、大人が提示してあげることが大事である。世代間交流できるワークショップも検討いただければ。
事務局	現時点では学生そして大人の各世代で一回ずつ開催する計画であるが、これから調整して行く中で、回数等について検討させていただく。 また、世代でライフスタイルが異なるので、同じ年代で集まる方が活発な議論が望めると考えているが、検討時の貴重な意見として伺う。
委員	1 点目は市民ワークショップの実施予定が 3 月から 4 月となっているが、多くの場合、非常に多忙な時期であり、特に学生ワークショップについては進級・進学をする時期であるため、春休みという時期を踏まえても、参加者が集まりにくい時期と思うので、時期の設定については考慮が必要と思う。 2 点目は LINE のアンケートについて、設問の 1 番、2 番が自由記述になっているが、普段から環境について問題意識を持っていない人はおそらく回答しにくいものになるので、選択肢+「その他」の自由記述のような形式がよいと思う。

事務局	3 点目は、LINE アンケートが多くの方から意見を取ることができるので、市民アンケートの設問のうち、最も聞きたい重点項目を LINE アンケートへ入れてみてはどうか。 時期の件については、3 月から 4 月は進学等で忙しい時期となるため、学校側とあらためて調整させていただく予定。
委員	LINE アンケートについても、自由記述だけではなく、ある程度目的を持たせるために選択肢等を選ばせる方法もあるので、そのように対応させていただく。 市民アンケートと同じ質問項目についても、合わせて検討する。 ワークショップの件で、現在実施されている市の公共施設をテーマに実施しているものが、施設の区分ごとに日程を設定していて、環境基本計画のワークショップにも参考になると思っている。“環境”も幅広くテーマを扱っていて、何を議論するか分からない方もいると思う。例えば「今日は廃棄物のことについて話す回をやります」とか、「今日は水のことについて」とか「自然環境のことについて」みたいに、テーマを分けて行えば、全てまたは関心のある分野だけ参加するということもでき、議題となる対象も絞られ、参加する側も得られるものがあると思う。大人のワークショップ 1 回と言っても、漠然と「環境の話をしましょう」だと、ぼんやりした話だけで終わってしまう可能性があるので、回数を分け、トピックを分けたほうが、参加する側もファシリテーションする側も得られるものがあると思うので、ご検討いただきたい
事務局	様々なテーマに対する意見は大事と考える。 計画を作るにあたり、期間の制約もある中で実施できることは限られてしまうが、継続的に話し合っていける場も必要と思っているので、そのような場を提供することも考えられる。
委員	アンケートについて、無作為抽出と記載があるが、対象者が絶対に偏らないと言い切れない部分もあると思っている。特定の地域からもある程度同じくらいのサンプルが取れるか、あるいは年代の偏りがいないとか、全ての地区で幅広い年代から意見を募ることについて、どのように考えているのか教えていただきたい。
事務局	もう 1 点は、資料の中の「WS」という表記について、最初パッと見たときに「WS ってなんだろう」と思う方もいると思うので、「ワークショップ」という言葉に統一していただいたほうが分かりやすいと思う。 「WS」という表記は修正し、「ワークショップ」と分かりやすい表記で資料を出していく。アンケートの抽出については、これまでの計画策定の時にも無作為抽出を一般的なやり方としている。
平林会長	アンケートの方法として、無作為抽出または目的に沿って地域や年代等のターゲットを定めて行う手法がある。委員の意見は、最初から無作為抽

	出とするのではなく、ターゲット層を定めて効果的に行う手法の提案を検討するものである。
事務局	実施方法について、あらためて検討していく。
委員	近隣の自治体で、無作為抽出で行われたアンケートがあったが、現実と乖離した結果となった事例があった。地域や年代等で実態と異なる結果が反映されてしまうことがある。効果的なアンケートとなるように、地域や年代等を考慮した実施方法としてもらいたい。
委員	3 ページにある「情報の受け手、行動の担い手の視点から」の項目にある“地域環境活動の担い手”とはどのような方を指すのか。市民がどのような行動の担い手であるというふうにお考えなのか、ちょっと具体的に教えていただければと思います。
事務局	日をあらためて委員の皆様へ回答をさせていただく。
平林会長	当ページは計画策定の基本姿勢となり、骨格となる部分であるため、分かりやすく伝えることが重要。
麻生副会長	無作為抽出した場合、人口が市の中心部に集中しているため、確率として都市部に住む人の確率が多くなる。旧市町村ごとに人口比率を出し、区域ごとに無作為抽出とすることで、地域ごとの意見集約となることでより均等な結果が得られるのではないかと。 また、20歳以上を対象としているが、佐久市に対して未来を抱いている方もいることや、参政権が引き下げになった背景も含めて、対象年齢を18歳以上に設定することも検討してみてもいい。
	(2) アンケート調査について
事務局	《資料 2「第三次佐久市環境基本計画の策定に向けたアンケート調査票（案）について」、資料 2-1「佐久市の環境についての市民アンケート調査」、資料 2-2「佐久市の環境についての事業者アンケート調査」について説明》
平林会長	「事前提出された意見等とそれに対する事務局回答」のアンケート調査に係る中で、No.8の意見について、提出者の意図をお伺いしたい。
委員	自身が無作為抽出され、一市民として回答する場合を想定してアンケートを実施してみた。問19を回答する際に、日ごろ環境への関心が薄い方が、他市と比べて佐久市の状況がどの位置にいるのかが分かると取り組むモチベーションが高まると思い、日常の中でそのような情報があるとよいと思ったので提案させていただいた。
事務局	計画を策定していく中で、状況把握をするために他の自治体の動向や環境施策の状況を確認しつつ取り組みを進めていくため、分析をする中で対応させていただきたいと考えている。

平林会長	比較する他市の状況を詳細に把握していないと、おそらく比較することが難しい。コンサルタントが入って計画を策定するので、他市町村と類似せず、佐久市の特徴がよく分かるものを提案いただきたい。
コンサルタント	他市と比較する際に、委員の皆様の視点や意見が様々あると思うので、意見等を伺いながら設問や資料の取りまとめをしていきたい。佐久市環境基本計画は個性的で特徴あるものであるため、それをさらに生かしていく方向で考えていきたい。
平林会長	長野県の環境基本計画との関連も押さえながら、計画の策定をいただきたい。
委員	事業者アンケートの中で CO2 削減目標値を定めているかを確認する項目を設けた方がよいのでは。さらに追加項目で目標値を定めている根拠（例：ISO14000）を確認すると、そこから実績値も確認することができる。 県の目標で産業界では、2030 年度までに 2013 年度比で 46%削減することとしているので、CO2 削減を目指すうえで一つの指標になるのでは。 問 17 の中に市に期待する支援で補助金・助成制度が挙げられているが、一例として工場では従業員を守るためのエアコンを設置する際に国や市の補助金を活用するが、冷却方式で水の気化を利用するものもあり、環境配慮型の設備への補助を提案する具体策も挙げることはどうか。
事務局	佐久市の企業立地戦略にも環境配慮への整合に対する取り組みが挙げられているので、環境基本計画とも整合を図りながら進めていきたい。
委員	試しにアンケートを行ってみたが、判断指標がないと答えづらいものがある。資料に補足するデータを掲載した方がよいと思うので、ご検討いただきたい。
事務局	市民が主観的にどのように捉えているのかをアンケートの目的としている。データを添付したうえでの回答は、経年変化を確認する趣旨と異なるため、これまで通り主観による回答を求めるものとしたい。
平林会長	一つの提案として、アンケート調査票の表紙の表書きに趣旨等を分かりやすい文書へ変更することで、回答の方が実施する目的を把握したうえで回答をいただけるものとなるのではないか。
事務局	少しでも答えやすいように表紙の記載を工夫していきたい。
委員	設問の中で、ホームページに環境白書等が掲載されていることの案内があれば、もっと知りたいという方はホームページを見る可能性がある。 アンケートを個人的に回答する中で、生物多様性の設問が突然難しくなると感じた。問 7 の生物多様性に関する説明を理解することが難しいというのと、問 8 の選択項目 4 番「生物多様性に配慮して生産された商品を選んでいる」については本当に選んでいるか悩むと思う。生物多様性に配慮した商品とすると、有機農産物やグリーンマークが掲載されたエコ商品とかが思い浮かぶ。設問の中で、具体的に有機農産物やエコマーク商品等の

平林会長 委員	環境に配慮した商品を購入してますかと伺う方が回答しやすいと感じた。 具体的なサジェスションですので、ぜひ検討いただきたい。
委員	事業者アンケート問 15 で、「貴事業所が環境に関する地域貢献活動において協力・支援できる取り組みはありますか」という設問はとてもよいと思うが、無作為抽出かつ無記名での回答とすると、自社でこのような取り組みできますと記載したのが、どこにも生かされないのがすごい気になっている。であれば、事業者の取り組みで今後広報してほしいものがあれば、情報を佐久市として発信するみたいな流れがないと、回答する意義がなくなってしまうことにもなるので、今後協力依頼するという意味も含め、次につながるような文言があると良いと思う。
事務局	市民アンケートでは、問 18 でどのような媒体から情報を受け取りやすいか、問 19 で知りたい情報を確認する設問があるが、事業者アンケートで確認しなくてよいのかなと思っている。同じような設問を入れると親切と思う。 2 点目は、先ほどの委員からの意見で、市民アンケートの問 19 の新たな選択肢として他市との比較を追加することについて提案があったが、事務局の回答と本来の論点が若干変わっていたとされていて、要は環境に対する意識が低い、まだ火がついてない人が行動するためにどう変わるかという指標の 1 つとして、他市町村より遅れていることが、もしくは他市町村より進んでいることがモチベーションになり得るのであれば、この選択肢を設けて、回答することにより、市民に当市の状況が分かることが提案された項目の要旨である。他市との違いを書くことが目的ではないとのことなので、市民の行動変容が何で起こるかというためにも、良い設問だと思うので、委員の皆さまの意見もお伺いしたいと思う。
委員	答える方によって、回答の趣旨が変わってしまうので、内容について検討させていただきたい。
平林会長	1 つ目は佐久市ならではの質問として、佐久市でヤギやニワトリ等の家畜を飼っている人が多い。市民アンケートの設問の中で、生物多様性の箇所が漠然としているので、家畜の飼育のようなすごく身近なことを入れるのも、佐久市ならではの設問と思った。 2 つ目は、市民または事業所のいずれかで、太陽光パネルの発電が終了する際について、国の認定制度初期に太陽光事業を開始して、パネルが破損している、リサイクルできない製品を使用している事業者もあり、発電事業者が発電事業の終了時のことについてどのように考えているかを疑問に思っている。 佐久市は太陽光パネルが先進的に普及しており、廃棄に関する問題を市民の方がどのように思っているか。太陽光発電が先行して進んでる市なので、そのあたりをうまく入れて聞いていただければ先進的な内容になると

事務局 麻生副会長	思われる。設問として入れることができれば、1つの特徴になるので検討いただきたい。
	検討させていただきたい。
	市民アンケートで事務局から市民が日頃感じていることを直感的に探りたいという趣旨を確認したが、例えば設問6の選択項目にある、きれいな空気、安全な水や土壌汚染等、市民に判断できるのかと思ったが、これについて自分はどのように感じてるかをお答えすればいいということであった。その辺り、環境という言葉には、自然環境だけではなく、生活環境や脱炭素、資源のリサイクルのように非常に多くの項目が含まれており、設問6にある24個の選択項目にこれらが含まれていて、表の二重線ごとにカテゴリーが分けられているが、例えば、自然環境についてどのように感じているか、生活環境についてどのようなイメージを持っているか、もう少し分けて質問した方が分かりやすいと感じた。
	アンケートの中で、取り組みに対して4段階の自己評価で採点するようになっているが、事業者アンケートの内容で脱炭素に関する取り組みに対して非常に偏重していて、自然環境に対する取り組みについての自己評価がないので、佐久市のように周りを山に囲まれた環境にある企業として、自然環境に関する取り組みの項目を増やしていただきたい。
平林会長	今回の環境基本計画はウェルビーイング＝生活の質がキーワードである。例えば、第三次環境基本計画が終わった後で、本当に達成できたかどうかを確認するため、次の環境基本計画を策定する際に、イニシャルデータとしてウェルビーイングの生活の質についてのコントロールデータを今回のアンケートに盛り込まないと、次の環境基本計画を策定するときに比較等ができない。計画に基づく施策を実施した後に、生活の質の向上が見られたというように、そのデータを使って次の環境基本計画に結びつけていきたいので、生活の質に関するイニシャルデータを取るような項目を入れていただきたい。
事務局	現在、市において最上位計画である第3次総合計画を策定しているところで、その中でもウェルビーイングというのは、キーワードとして大変重要になるが、これまでの策定においても、市民へ幸福度、幸せを感じているかというデータを、経年で取っている。ウェルビーイングが幸福度とイコールとなるかは議論が必要となるが、第3次総合計画の枠の中でもそういったものを測りとしてとっていくため、アンケートの抽出母数やニーズもちょっと多いが、企画課とも調整をする中で、これまでの幸福度の調査内容で変えられるのであれば、それを測りにしていき、それ以外にも項目が必要であれば、新たに検討させていただく。
委員	市民アンケート調査の対象者の人数について1500人とした根拠を伺いたい。資料1 5ページに、回答者の意識啓発を図り、環境行動への気づ

事務局	きを図るとあり、1500 人という、市民の大体 1.5%となる。しかし、環境行動の気づきを図ることが目的とすると、AI に確認する中で5 %、10%と記載があったので、そのあたりについてどのような根拠で先の数値としないのか、まずはその 1500 人の根拠を伺いたい。
事務局	これまでの環境基本計画のアンケートの抽出人数を 1500 人で取ってきたことがベースにあるが、統計学では 10 万人規模で信頼度 95%のデータを集めるための標本数がおおよそ 390 と言われている、1,500 人を対象として、回答率が例えば半分であったとしてもそれなりのデータが取れるため、統計学的に信頼できるデータになると踏んでいる。 ただ、一方で地域ごとの分析や年代的な分析をしていく点においては、若干足りない部分が出る可能性はあるが、対象者数を増やすというのも予算的な問題もあり、今までやってきたものを踏襲しつつ、統計学上ではサンプリングが足りる数字になると考えている。
委員	ウェルビーイングへのフォーカスについては、この内容だと分からないと考えている。佐久市総合計画の調査内容で確認できる可能性があるという話があり、その中に含まれてるかもしれないが、何が良くなることが、アンケートに回答した人にとってウェルビーイングが向上するという設問があり、その結果として私は幸福を感じています、佐久市に暮らしていてハッピーですということが、環境とは全く関係のない回答から来ているものだとすると、環境基本計画とは繋がっていないってことになってしまう。環境の質を上げることがウェルビーイングに繋がるということのその指標を測るため、何があれば幸福とを感じるか、それが豊かな自然なのか、という項目があって、環境とウェルビーイングが直結したイニシャルデータがあると分かりやすいと思った。
事務局	企画課ともその測り方も確認させていただく中で、いわゆる環境の質を上げることについて、うまく結びつけたアンケートをとって、測れるような仕組みを検討したい。
	5 その他
委員	資料1 3 ページの基本姿勢で環境基本計画の指針となる認識ですが、一点目の「●ウェルビーイングを最上位目的に三大未来方針の道筋を明確化」の右側に3つの具体策が記載され、2つ目に安全安心の基盤としての気候変動とあるが、そこに基盤としての気候変動適応及び緩和と生物多様性の保全または回復のように二本立てで記載をお願いしたい。
事務局	次の審議会は、第三次佐久市環境基本計画のスケジュール等について審議する予定。開催時期は令和8年12月頃予定。

